



宇久島の謎（下）  
上五島・長崎巡礼④

五島列島の最北端にある宇久島（うくじま）は中通（なかとおり）・若松・奈留（なると）・福江の島とともに、五島列島の名前の由来である五つの島のひとつとされていた。

しかし現在は宇久島は外れ、代わりに久賀島（ひさかじま）が加えられ、宇久島は平戸諸島の一部とされたことと経緯は前回、私の

推論を書いた。

この発端は広辞苑にある。我が家にある広辞苑は一九六九年（S44）発行の第二版で、五つの島のひとつは宇久島と明記されている。ところが、二〇〇八年（H20）発行の第六版では宇久島から久賀島に代えたとある。

第二版から第六版までの間には約四十年が経過しており、この間の行政区画の変更によって宇久島から久賀島に代えられ、広辞苑もそれに従って記載を変更したものと思われる。しかし、語源の由来の島を行政区画で変更するのはいささか変であり、そのうえ平戸諸島の一部としながら、平戸市ではなく佐世保市の一部というのも合点がいかない。

さらに調べてみると、宇久島の名前は鎌倉時代、この島から興った宇久氏に由来する。その後、宇久氏は次第に勢力を拡大、ついに五島列島全域を支配し、本拠地を宇久島から列島で一番大きな福江島に移した。そして豊臣秀吉の時代に姓を宇久から五島に改め、五島藩として秀吉から領有を認められたのである。

こうした歴史的経過や五島列島の最北端という地形上からも、宇久島は五島列島の一部というのが一番妥当と考える。

ただし、前回書いたように、五島列島は江戸から明治にかけてキリシタンが潜んだ地として有名で、キリシタンの歴史から見ると長崎県が現在のように宇久島を列島から外したことも一理あるように思える。すなわち、前回触れたように列島北端の宇久島、小値賀島（おぢかじま）には長崎からのキリシ

タンの移住はない。つまり五島列島がキリシタンの潜んだ地という観点だけでいうならキリシタンの痕跡は全くない宇久島を外したことがわからなくもない。

なお「宇久島の謎」は次の事実から私の中では解決した。それは博多港から五島列島に向けて就航しているフェリーの寄港地である。博多を深夜に出港するフェリーは宇久、小



昔からの由来通りの島に寄港するルート  
＝青方は中通島にある港の一つ

値賀、中通、若松、奈留、福江の六つの島に寄港する。島の面積からいえば福江、中通に次いで大きい久賀島には寄港しない。それは現在の人口を比較してみても大きい島のほとんどが二千人以上であるのに、久賀島だけは約五百人だからであろう。前記六島のうち、面積が一番小さい小値賀島を除いた宇久、中通、若松、奈留、福江の五つの島が昭和四十四年発行の広辞苑に明記されている五島列島の名前の由来である五つの島と一致し、それを行政上やキリシ

タンの歴史のみから変更すべきではないというのが私の結論である。そして今度は、昔からの列島の名前の由来通りの五つの島に寄港する博多港発のフェリーで再び五島列島を訪ねたいと思うのである。（元山口放送取締役ラジオ局長）



佐世保―有川港（中通島）就航のフェリー